

ゲーム「ものしりゲーム」

- 用意するもの
 - 紙
 - スクリップ
 - ペン
 - はさみ
 - 1本
- 作り方
 - ①全員の中で1人、リダーを決める。
 - ②いくつかのグループをつくり、その中で1人、書く係を決める。
 - ③リダーは各題を出し、(例)「野菜の名前」「魚の名前」「アニメの名前」
 - ④リダーが「スタート」と言ったら、書く係は書いたものが「〇〇の名前」を書いていく。書く係以外の人は思いついた「〇〇の名前」をまわす。制限時間3分。
 - ⑤時間になったらリダーがストップと叫んで答え合わせを全員で行う。あてはまらなかったものは「クイズ」のカードを1枚ずつ減らす。
 - ⑥あてはまった数が多かったグループが勝ち!

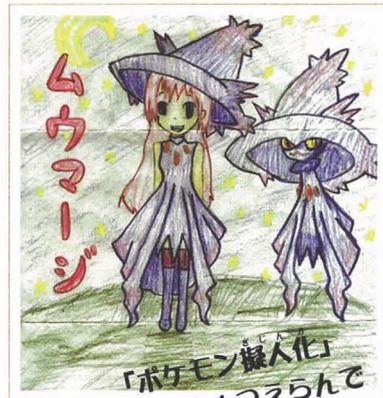
ものしりゲーム
でわいわいやつて
もり上がるぞ!

西田瑞希(長野市6年)

辰年の今年はどうな1年でしたか?
たくさん笑ったり、泣いたりしましたか?
来年は今年よりもっと良い年にしたいと思います。



2012年
しじょうぼうなんかい
紙上忘年会



「ポケモン擬人化」
キャラを1つえらんで
人間にするよ!

セイン(長野市6年)

今年の思い出



今年もいろんなことが
あったなあ～

夏美月(長野市6年)

「言ってスッキリごめんね」



弟の大事にしていたプラレールをけんかした時にこわしてしまってごめんなさい。

箱山優希(上田市3年)

私のペット



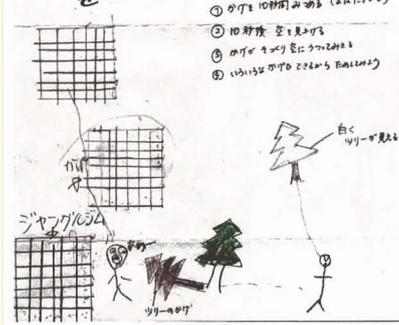
7ヶ月のパピヨン「ハッピー」ちゃんです。家族と遊ぶのが大好きです。とてもあまえんぼうでよくみぞの上でわむります。



かわいいうんちゃんも忘年会に参加♪

えりちゃん(松本市5年)

みんなで「かげおくりゲーム」をやるぞ!



イチロー31(松本市3年)

「松本山雅劇場 松田直樹がいたシーズン」

著・宇都宮徹也 カンゼン

ほくの好きな本は、「松本山雅劇場」です。今年からサッカーJ2リーグにしようかした松本山雅。この本は、その松本山雅の昨年の戦いを書いた本です。山雅は昨年、松田直樹選手を加えて、J2にしようかしようとしてきました。しかし、その松田選手が8月、30代という若さで死去。その波乱のシーズンを追った本です。ほくが好きなところは、山雅がJ1のアルビレックス新潟を破ったことについて書いてある場面です。山雅は1点を守りきって勝った試合です。サッカーファンは、ぜひ読んでください。定価1680円。

上原 優明 記者(上田市5年)



本
回
と
び
ら

こちら編集局

この1年、信毎こども新聞の取材教室やこどもスクールに参加してくれてありがとうございました。今年は、みんなといっしょに、信州の技術者のみなさんのところを訪ねたり、縄文時代の暮らしを学んだりして、とても楽しかったです。毎回、みんなが体験をして、書いて、送ってくれた記事を見てると、ほんとうによく話を聞いて、一生懸命になってまとめてくれているな、と感じてきました。来年もいっしょに、いろいろな経験ができたらうれしいです。ともどもに、一步一步成長していきたいと思います。

信毎こども新聞デスク 西島拓也



みんなに読んでほしい大好きな本をぜひ教えてね。はがきやお手紙、ファクス、メール、なんでもオケー。表面にある「こども記者クラブ」あてに送ってください。けいさいのおれいに「なーのちゃんタオールハンカチ」をプレゼント!

編集局文化部

畑谷史代



方があることに、記者になってようやく気づきました。

もう一つ。小さいころからの夢があります。料理研究家です。料理を作るのが好きで、休みの日にパンの生地をこねていたりすると、なぜか心が安らぎます。自分の手でおいしいレシピを生みだせたらすてきです。

ただ、実際に料理研究家の方たちを取材すると、プロの世界の厳しさがビシビシ伝わってきます。みなさん基本をしっかり勉強したうえで、いつも新しい情報を取り入れて、レシピの研究にも余念がありません。「好き」であることは大事だけれど、うんと努力しなくてはプロにはなれないですね。

よく考えると、どんな仕事にも同じことが言えます。もちろん、新聞記者も。だからいまはこの仕事をがんばろうと思います。それでも、いつかは舞台に立ってみたい。オリジナルのレシピで料理研究家デビューを果たす日が来るかもしれません。その野望は捨てていません。

もし 記者じゃなかったら

舞台俳優か、料理研究家に

記者になって、さまざまな職業の人に会います。話を聞いたり、「働く」姿を見たりして、「あー、どうして自分は、この道に進もうと考えなかったんだろう」と残念に思うことが何度かあります。なかでもひかれるのが、舞台俳優です。

俳優さんで、すごいです。ひだんしゃべっているときと、演じているときとは、まるで別人のような人もいます。ひとたび舞台上立つと、きらきら輝いている。体の内からあふれるものが伝わってきます。

俳優は、いろいろな時代、いろいろな境遇の人になれるし、何通りもの人生を生きられる。もちろん舞台の上のお話ではありますが。自分の表現が、観ている人にどう受けとめてもらえるかにも興味があります。

振り返ると子どものころは、将来何になりたいとか、深く考えていなかった気がします。中学のときは高校へ、高校のときは大学へ行くことがさしあたりの目標でした。大学に入ってから、歴史の研究者になろうと思っていましたが、本が好き、活字が好きだった縁で、信毎の記者になりました。世の中にはさまざまな仕事や生き